



平成 28 年 10 月 14 日

各 位

会社名 富士通コンポーネント株式会社  
代表者名 代表取締役社長 石坂 宏一  
(コード番号 6719 東証第 2 部)  
問合せ先 取締役 倉本 雅晴  
(TEL 03-3450-1601)

当社の親会社 富士通株式会社  
代表者名 代表取締役社長 田中 達也  
(コード番号 6702 東証、名証、各市場 1 部)

### 営業外費用（為替差損）の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、下記のとおり営業外費用（為替差損）が発生しましたのでお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 4 月 26 日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 営業外費用について

外国為替相場の変動により、平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）において、499 百万円の為替差損を計上いたします。これは主として、平成 28 年 9 月末時点で当社グループの保有する外貨建債権債務を同日の為替相場で評価したことに伴い発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動いたします。なお、第 1 四半期連結会計期間（平成 28 年 4 月 1 日から平成 28 年 6 月 30 日）において 383 百万円を計上しており、第 2 四半期連結会計期間（平成 28 年 7 月 1 日から平成 28 年 9 月 30 日）における為替差損は 116 百万円となります。

#### 2. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	24,100	100	50	△50	△4.40
今回修正予想 (B)	23,540	220	△280	△440	△38.76
増減額 (B-A)	△560	120	△330	△390	—
増減率 (%)	△2.3	120.0	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	23,706	246	219	534	67.15

3. 平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	49,200	900	750	500	38.50
今回修正予想 (B)	48,100	900	370	210	16.17
増減額 (B-A)	△1,100	—	△380	△290	—
増減率 (%)	△2.2	—	△50.7	△58.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	48,278	907	512	626	78.67

4. 修正の理由

第2四半期連結累計期間における売上高は、当社の主力製品であるリレー・タッチパネルが、車載市場向けを中心に堅調に推移し、当初の為替水準では計画どおりの見込みですが、為替が円高に推移したことにより、前回予想を下回る見通しとなりました。損益面につきましては、営業利益については、円高による悪化要因はありましたが、生産性改善、コストダウン、発生費用の縮減による原価低減を加速した結果、前回予想を上回る見込みです。経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、営業外費用において短期での円高への為替変動により為替差損を計上したことから、損失計上となる見込みです。

通期の業績につきましては、当社の主力製品であるリレー・タッチパネルが車載市場向けを中心に引き続き需要増の状況が見込まれるものの、直近の外国為替相場における円高の影響により、売上高につきましては下方修正いたします。損益面につきましては、上期末での一層の円高進展による収益悪化リスクを踏まえ、リレー・タッチパネルの増産効果、さらなる生産性改善、コストダウン、発生費用の縮減による原価低減等の施策を実施し、営業利益につきましては前回予想を据え置きます。経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、第2四半期連結累計期間での営業外費用の為替差損を解消するには至らず下方修正といたします。

以 上